

2021年2月17日

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保育
事業所名	レイモンド大津保育園
代表者氏名（管理者）	園長 小谷 梢
法人名	社会福祉法人 檸檬会
定員（利用人数）	90名（99名）
施設・事業所所在地	滋賀県大津市一里山7丁目1-1 フォレオ大津一里山1F
T E L	077-544-0400
F A X	077-526-7200
電子メール	kozue.k@lemonkai.or.jp
ホームページアドレス	http://www.lemonkai.or.jp

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター
評価実施期間	2021年1月25日と2月4日（オンライン調査）

○ 総合評価

社会福祉法人檸檬会は、全国に58の保育園・こども園を運営し、滋賀県内では保育園が5か所、こども園が3か所あり、当園は滋賀県内の設立第1号である。同法人は、保育を中心に学童保育、就労移行支援事業を通じて、より多くの方と幸せを分かち合える社会づくり「ソーシャルイノベーション」を目指している。

平成21年4月1日にスタートした「レイモンド大津保育園」は一里山ショッピングモール1階に位置する保育園である。当法人は保育サービスの質向上を目指して第三者評価調査を5年ごとに受審されており、当園も5年前に第1回目の受審をされている。

全ての子どもに対し、短期的な結果を求めるのではなく、生涯消える事の無い“生きる力”と、“3つの心”「①人・命を愛する心」「②自然と共に生きる心」「③想像(創造)する心」を育てることを園の保育理念と定め、園長以下職員全員が協力し保育の質向上に向かって法人本部の指導の下、情報やアイデアを共有し明るくにこやかに前進している保育園である。

○ 特に評価の高い点

1、職員間の温かい関係について

園入り口の壁面に「私たちの園自慢を掲示します」として以下のポイントを公開している。

- ・子ども主体の活動や行事に取り組んでいる
- ・園庭はないけど様々な公園に出かけ自然体験ができる
- ・丁寧な保護者対応～いろいろな方法での情報発信
- ・寄り添う保育・安心・信頼

職員研修を通して、毎日の保育実践の中から自然に生まれたこの4か条は、職員間のコミュニケーションが詳細に交流され、職員がお互いに育ち合える関係づくりが保育指導・保育実践へと生かされている。

2、育児担当制の取組について

乳児の育児担当制を取り入れ特定保育士との愛着関係を築くため、一人ひとりに寄り添った細やか保育が行われている。丁寧な関わりを通してできる事が増えてくるので、子供のやりたい事やできる事を見極め待つ保育を大切にし、手助けが必要な時にはさりげなく行うなど実践している。基本的な生活習慣が自発的に身についてくる。テーブルで遊んだ後や食事が済むと椅子を机の下に入れる行為を1歳児から5歳児まで全員が自然な形で実施している。

3、なんだろうのその先へ

子ども自身が考えたり、不思議に思いその先に進みたくするような気持を育てていく保育を目指している。3歳児がキノコに興味を持ち、いろいろな話しをしているうちに、様々な種類のキノコの絵を描いて、壁面にはまるでキノコ図鑑のようなたくさんのキノコが展示してあった。2歳児はアオムシを飼育し次第に蝶々に育っていく過程に興味を持ち、その様子を貼り絵にして壁面に展示している。意欲と興味を持つ環境を用意し、発見する面白さ、命の尊厳を知るという「感動」の機会を大切に保育を行っている。

4, 園外活動について

園庭はないが、周りの自然環境に恵まれている事を利用し、戸外活動を多く取り入れている。戸外活動時には、地域の方に声を掛けてもらったり、挨拶したり交流がある。また、鳥や動植物との楽しい出会いもあり、いろいろな経験ができる環境である。1日に一度は園外に出ようとの配慮がうかがえ、保護者からの評価もアンケート結果で95%満足しているとの評価が高い。

5, 災害対策について

さまざまな災害を想定した避難訓練は、一年を通して非通知で毎月実施している。避難が必要な時には素早く一里山公園へ避難し、①おさない、②はしらない、③しゃべらない、④もどらないの4つの約束お・は・し・もを守り行っている。年2回ショッピングモール内でも合同の訓練を行うなど避難ルートや避難手順・子どもの動き・反省など詳細な記録がある。災害時保護者には一斉メールを配信し、職員緊急メールは事務所に掲示している。日々の戸外活動の散歩バックには園児・保護者の連絡網・緊急時の方法・散歩先の住所・各クラスiPhoneを整備し出かけている。園児防災頭巾や防災シューズは保育室で、水・食料・簡易トイレ・毛布など適切に倉庫に保管している。

6, 食育について

本部の栄養士と当園の調理師4名の努力により、「旬の食材を楽しもう」を目標にし、主食には法人全体で栄養を考慮した「金芽米」や玄米、主菜には旬の野菜や魚を使用し、バランスのとれた食事を提供している。子どもたちの残食はほとんどなく、自園の畑で収穫した野菜をクッキング活動やおやつにして食育につなげている。コロナ禍で密を避けた未満児の2部制や4~5歳児は自分でごはんの量を決め、順次空いた席で友だちと昼食を楽しんでいる。喫食の早い子・遅い子それぞれ急かすことなく、その子のペースに合わせ、終わった子から決められた場所に食器や箸、椅子を元に片付けている。どのクラスも毎日の手順が自然に行える給食スタイルは目を見張るものがある。献立表の配布や給食内容についての保護者アンケート結果は、100%の評価を得ている。

7, 地域子育て支援について

地域の未就園家庭支援として一時預かり事業を実施、毎月65人~114人の子ども達が利用している。登園時も穏やかで、「おはよう」の挨拶をすると自分の名前が書いてあるロッカーにカバンを置き、タオルを掛け、その後自然に遊びの中に入っている。3名常置している保育者が優しく寄り添って接しており、保護者からの相談にも対応している。地域貢献としても高く評価したい。

○ 改善を求められる点

1, 手順書の再整備と活用について

経験豊富な保育士・新入保育士が保育業務や作業を同じ方法で行える手順書として、保育業務マニュアルを整備し、日々の業務を各会議で検討・見直しを行っているがその都度差し替え改訂版として職員がいつでも閲覧出来るよう考慮してほしい。法人として保育の理念・方針・保育内容をまとめた冊子「レモンのこころ・レモンの保育」を全職員に配布しているが、

昼礼時や内部研修時など個々の業務の振り返りがマニュアルの活用を通して実践されることを期待したい。

2, 小学校との交流について

小学校と連携の工夫をして欲しい。就学を前にして、子供、保護者の不安解消の方法として ZOOM システムを利用した小学校の様子が伝えられる方法を探してほしい。卒園が近づいているが、是非貴重な体験や予備知識が得られるよう工夫をして欲しい。コロナ禍がこれからはしばらくは続く見込みで、色々なことを想定した方法、工夫をお願いしたい。

3, 保護者とのコミュニケーションについて

各クラスの連絡ノートを整備して保護者からの連絡事項がクラスの担当者だけでなく、帰りの受け渡しの担当者にも伝わるよう情報の共有に努めてほしい。

コロナ禍にて保護者は担任の保育士とコミュニケーションを取ることが困難で子どもたちの様子が分かりにくい状況であり、送迎時できるだけ声かけ等行いコミュニケーションを図り、なお一層の信頼関係を築いてほしい。

4, 中長期目標策定について

これからの地域状況は、リモートワーク等いろいろの要素で変化が激しくなることが予想される。全国展開されている貴法人であることから、本部中心に各園に対しての中長期目標設定の早期実現を期待したい。

○ 第三者評価結果に対する事業者のコメント

自園の取り組みや活動、保育についてしっかりと評価いただけたことは私たちにとっては非常にありがたく思います。保育は正解がない世界で、環境や置かれている状況もそれぞれ違うため評価が難しいですが、自分たちが日々子どもと向き合い関わっている事を評価していただけたことはこれからの原動力になります。しかしこれに甘んじることなく、更なる質の向上に努めていく所存です。

改善事項につきましては真摯に受け止め、これから改善に向けて取り組んで参ります。まずは檸檬会の保育の基礎である「れもんのこころ」「れもんの保育」の共通理解をはかり、同じ方向を目指した保育を進めていきます。手元にあるだけにとどまることなく、活用方法まで周知していきたいと思えます。そこが中長期的な目標にも反映され、檸檬会の保育の浸透率を上げていけるよう進めて参ります。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、今年度においてはこれまで当たり前に行っていたことができなくなる一年でした。新しい生活様式への転換が必要であったことは保育の内容においても同じでした。できる方法を見つける努力を惜しまず、今後も対応していくことが必要だと感じました。保護者、地域、小学校などとのつながりは今後も続いていくので改善し、より良い保育園運営を目指して参ります。